

佐賀県武雄市（国内 26 例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る  
疫学調査チームの現地調査概要

令和 4 年 12 月 6 日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境・農場概況

- ① 当該農場は針葉樹植林の山中に位置し、農場周辺には複数のため池やダム湖、ソーラーパネル、茶畑が存在した。
- ② 調査時、農場から約 700m 離れたため池ではヒドリガモ 18 羽、約 1.9km 離れたダム湖ではオオバン 12 羽などが確認された。ほかには農場周辺のため池でコガモやマガモ、ハシビロガモも確認された。
- ③ 当該農場は、育雛舎 2 棟（発生時は空舎）、育成舎 4 棟（2 棟空舎）及び成鶏舎 6 棟（1 棟空舎）があり、全て低床式開放鶏舎だった。成鶏舎は、6 棟が前室側通路でつながっており、発生時はそのうちの 5 棟のひな壇式 2 段ケージで採卵鶏が飼養されていた。

2 通報までの経緯

- ① 飼養管理者によると、成鶏舎のうちの 2 棟（通報時 330～806 日齢）で、数日前から死亡羽数が微増していたが、気温低下や給水不良による管理失宜と考えていたとのこと。
- ② 12 月 5 日朝の健康観察時に、両棟の複数箇所でも固まって鶏が死亡しており、それぞれ 100 羽を超える急激な死亡増加を確認したため、家畜保健衛生所に通報したとのこと。飼養管理者によると、目立ったチアノーゼや顔面浮腫は確認されず、眠るように死亡していたとのこと。
- ③ 調査時、通報のあった 2 棟では複数個所でまとまって死亡・衰弱している様子が見られた。また、隣接した棟でも数か所で死亡しているのを確認した。それ以外の鶏舎では特段の異状は認めなかった。
- ④ 調査時、死亡が多く見られた棟では多くの軟卵が確認された。飼養管理者によると、最近軟卵が増えたという認識はなく、通報後に飼料給与を止めたためではないかとのこと。一方で、成鶏舎のうち、鶏に異状を認めなかった棟では目立った軟卵は見られなかった。

3 管理人及び従業員

- ① 飼養管理者によると、作業従事者は 15 名で、全員が飼養管理作業及び集卵作業を担当し、鶏舎ごとの担当は決まっていないとのこと。
- ② 当該農場の従業員を含め、他農場との人・物の行き来はなかったとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 飼養管理者によると、従業員は農場入口付近の倉庫で作業着に更衣し、衛生管理区域専用靴に履き替えていたとのこと。手指消毒（又は手袋の着用）は実施していなかつ

た。長靴の履替え場所にはすのこの等の設置はなく動線が交差していた。

- ② 鶏舎ごとの専用長靴への交換、手指消毒の実施、踏込み消毒槽の設置はなかった。
- ③ 衛生管理区域入口には足回り用の自動式の車両消毒ゲート（下から消毒液が出るタイプ）を設置していた。また、来場者用の長靴及びフロアマットが用意されていた。
- ④ 衛生管理区域入口には立入禁止看板と監視カメラが設置されており、飼養管理者によると画像データをもって来訪者記録としていたとのこと。
- ⑤ 鶏舎は全て開放式であり、鶏舎側面は金網、ビニールカーテン及び防鳥ネット（2 cm 四方）で覆われていた。気温が低い時期はカーテンを閉鎖しているとのことだったが、成鶏舎は老朽化により天井、金網、カーテン及び防鳥ネットのいずれにも破損が多く認められた。
- ⑥ 鶏舎ごとのオールアウトは行っていなかった。
- ⑦ ケージ下に堆積した鶏糞は重機で不定期に鶏舎から搬出し、農場内の鶏糞乾燥場で一時保管し、堆肥場で攪拌・発酵処理後、耕種農家に販売しているとのこと。堆肥化作業が間に合わず、古い鶏舎を生鶏糞置場として利用していた。これら施設の防鳥ネットは未設置又は破損していた。
- ⑧ 集卵は手で行い、その際に鶏舎内の鶏の健康状態を観察していたとのこと。死亡鶏はその際に回収し、農場内で焼却しており、場外への搬出はなかったとのこと。
- ⑨ 成鶏舎の飼料は、飼料タンクから自動給餌されていたが、その他の鶏舎は自動給餌機の設置がなく手給餌を行っていた。飼料タンクには蓋がされていた。
- ⑩ 鶏舎で使用する水は地下水を使用していた。消毒は行っていなかった。

## 5 野鳥・野生動物対策

- ① 鶏舎は老朽化が激しく、開放部にネットや金網が設置されていない箇所も多かった。また、鶏舎の屋根やカーテンにも破損や間隙が多く見られ、野生動物の侵入は容易な構造であった。
- ② 飼養管理者によると、農場敷地内でイタチ、アナグマ、タヌキを見かけるとのこと。またノラネコが住み着いているほか、多いときはカラスを100羽近く見ることもあるとのこと。イタチによる雛の獣害を受けたこともあるとのこと。
- ③ 調査時、成鶏舎のうち非発生鶏舎の通路にネズミの死体を確認した。また、発生鶏舎を含む複数鶏舎でネズミによるものと思われるかじり跡、飼料レーンへのネズミ糞の混入も見られた。
- ④ 調査時、成鶏舎のうち非発生鶏舎内でカラス、育成舎の前室及び鶏舎間の空間においてネコの侵入を確認した。発生鶏舎を含む複数鶏舎で野生動物に食いちぎられたと思われる鶏の死体が複数見られ、梁の上に野生動物が運んだと思われる鶏卵が認められた。
- ⑤ 調査時、堆肥舎周辺などにカラス数十羽を確認した。また、堆肥舎内、鶏舎周辺で中型哺乳動物と思われる糞、鶏舎脇で中型哺乳動物と思われる足跡や獣道を確認した。

（以上）